

ベーシック研修の内容と学べるポイント

① 発達障害（神経発達症）の特性理解

→発達障害（神経発達症）について、自閉スペクトラム症、LD、ADHD を中心に、それぞれの特性や感じ方・捉え方の違いを具体例を交えて学びます。現場でよくある「なぜその行動が起こるのか」を理解する土台を作ります。

② 障害特性に合わせた支援

→「支援って何をしたらいいんだろう」「うまく伝わらない」と感じたことはありませんか？実際の事例紹介や支援具の展示を交えながら、①で学んだ特性に合わせた具体的な支援方法を学びます。また、タブレットやアプリなどの ICT 機器を活用した支援の工夫についても簡単に紹介します。

③ アセスメント（評価）

→日常の行動や各関係者（保護者、学校・事業所職員など）の情報から、特徴や生活環境、困りごとを把握・整理し、一人一人に合わせた支援に繋げるための方法を学びます。事例を基に情報整理と分析の練習も行います。

④ アセスメント（評価）に基づいた支援の計画

→アセスメントで得た情報に基づいて支援を考え、実際の支援に落とし込む方法を学びます。事例を基に計画づくりを練習します。

⑤・⑥ 支援具作成ワークショップ

→研修や本、SNSなどで支援グッズを見たことはあるけど、どう作ればいいのか分からない、作ってみたけどうまくいかない。そんな悩みに応える回です。障害特性に基づいた支援のアイデア・気を付けるポイントなどを押さえながら実際に支援具を作成します。

I 環境調整・見通し（日課）、1つ1つの活動の流れの示し方

II 手順提示（作り方や遊び方などの説明）、教材、作業の練習課題など

⑦・⑧ 問題行動への対応

→強度行動障害など、生活に影響を及ぼす行動には理由があります。行動観察を基に背景を整理し、適切な支援につなげるための考え方と方法を学びます。

I 問題行動の背景の探り方・背景に応じた支援方法や計画の立て方

II 関わり方の工夫や、1人・1つの事業所で抱え込まずに支えるための連携の視点

⑨ グループ活動における支援

→研修で学んだ内容をもとに個別での支援は理解できても、実際には複数人を同時に支援する場面が多く、戸惑いや難しさを感じることはありませんか？一人ひとりへの支援と全体の動きとのバランスを踏まえながら、集団場面での支援の組み立て方や活動の進め方、ルールやマナーの伝え方を学びます。

⑩ 思春期・成人期に向けた支援

→思春期の対応や将来に向けた準備に不安はありませんか？性の課題や感情コントロール、余暇の過ごし方など、思春期・成人期に向けて必要な支援の視点と具体的な関わり方を学びます。

発達障害児・者支援の現場で働くみなさんに学んでほしい

内容となっておりますので、パートで働く方や経験の浅い方なども

是非ご参加下さい！！